

評価方法等の工夫について（実践例）

～主に「思考力、判断力、表現力等」の高まりを判断する評価方法について～

（「確かな学力」向上推進報告書、学校訪問、各種事業 等より）

【例1】自己評価を利用して（子どもたちの自己評価によるもの）

○ 自己評価の例（表現は、小学校〔低・中・高学年〕、中学校の発達の段階に合わせること）	☆ ◎ ○ △
Q1 友だちの意見を聞く時、自分の意見と比較しながら考えるようになってきた	
Q2 文章を読む時に、本当にそうなのかと考えながら読むことが多くなってきた	
Q3 問題を見て、こう解けばいいのではないかと予想することが多くなってきた	
Q4 友だちのどの意見が一番いいのか、選ぶことができるようになってきた	
Q5 思っていることを友だちに上手に伝えることができるようになってきた	
Q6 自分の考えを整理しながら文章で表現できるようになってきた	
∴（Q1・2は主に思考力、Q3・4は主に判断力、Q5・6は主に表現力に関する項目）	

- ・子どもたちに「考える力、表現する力が高まったと感じるのはどんなときか」等のアンケート調査を実施し、その回答（言葉）を利用した。
- ・判定の指標（☆◎○△）は、数字よりも、「強くそう思う」～「そう思わない」等、子どもが判断しやすい具体的な表現を用いる。
- ・複数回、同じ質問項目で調査し、その結果から高まり等をとらえ、事前に設定した目指す子どもの姿の「評価規準」、教師が普段「何となく感じていること」、その他の評価方法による結果等と比較しながら、自己評価の文言の妥当性等を検証していく。
- ・自己評価の結果を信頼できるものに高めていくためには、自己評価の文言が意味する具体的な姿を子どもたちに共有させることが大切である。そのために、できるだけ曖昧な表現は避ける（Q5「上手に」→「順序よく」「理由を付けて」）。各自が勝手な基準で判断することにより、信頼性は薄れてくる。子どもによって甘い・厳しい判断をするのはこの部分が不足しているからと考えられる。
- ・思い切ってアンケート項目数を絞ることも必要である。

【例2】ルーブリック表を活用して（子どもの到達度を教師が評価するもの）

[小学校 社会科]		
段階	具体的な子どもの姿	実際の授業の中での具体的な表現例
5	社会的事象について、共通するところや違うところ、複数のことを組み合わせることを指摘し、社会的事象の意味や特色、関連性について、複数の根拠を示して適切に表現している。	スーパーマーケットは、お総菜や魚、肉などの賞味期限等を表示しています。これは、お客さんの、新鮮で安全なものを選びたいという願いにこたえたスーパーの工夫です。また、車で買い物に来ることができるような大きな駐車場をつくるなど、たくさんのお客さんに来てもらうための工夫もあります。
4	社会的事象について、共通するところや違うところを指摘し、社会的事象の意味や特色、関連性について、根拠を示して適切に表現している。	スーパーマーケットでは、お総菜や魚、肉の賞味期限等を表示しています。これは、お客さんの新鮮で安全なものを選びたいという願いにこたえたスーパーの工夫です。
3	社会的事象について、共通するところや違うところを指摘し、社会的事象の意味や特色、関連性について、表現している。	スーパーマーケットでは、お総菜や魚、肉の賞味期限等が表示されています。これは、スーパーの工夫です。
2	社会的事象について、共通するところや違うところを指摘し、表現している。	スーパーマーケットでは、お総菜にも魚にも肉にも賞味期限等が表示されています。
1	社会的事象について、共通するところや違うところに気付くことができず、表現することができない。	スーパーマーケットには、お総菜や魚、肉などが売っていました。

（5段階で設定したが、難しいなら3段階でも可）

- ・ルーブリック(Rubric)とは、学習到達度を数段階に分け、判断するための基準として表で示すものである。
- ・判断の基準が示す子どもの姿を、どれだけ具体的にイメージし、共有できるかが重要となる。
- ・この実践例を参考に、学校の研究主題等が目指す「具体的な子どもの姿」を設定することで、研修成果の判断の基準等として利用できる。定期的に評価する活動を通して、その高まり等を把握することができる。
- ・参考：「人事評価ハンドブック（秋田県教育委員会）」（美の国あきたネットよりダウンロード可）「Ⅲ 5 評価の方法・原則」(3)(4)、「Ⅲ 6 評価の実際と手順」(3) 等

【例3】記述式テストを利用して（子どもの到達度を文章表現で評価するもの）

〔国語〕

○ 次の問題文を読んで、後の問いに答えなさい。
 … 文章 …

Q 『この文が訴えたいこと・伝えたいこと』を30字以内でまとめなさい」という問題が出題された場合、キーワードとなる言葉は何だと思いますか。文中から二つ選んで抜き書きなさい。また、それぞれを選んだ理由も書きなさい。

〔算数・数学〕

○ 次の問題文を読んで、後の問いに答えなさい。
 … 問題 …

Q 問題文を読んで△△について解こうとするとき、何に注目して問題を解く方法を考えますか、書きなさい。ただし、考えたことが複数あったら、それらを全て書きなさい。

Q 問題文を読んで△△について解こうとするとき、以前学習した、何を用いて解けばいいと考えましたか、書きなさい。ただし、考えたことが複数あったら、それらを全て書きなさい。

・子どもたちに「考える力、表現する力が高まったと感じるのはどんなときか」等のアンケート調査を実施し、その回答（「問題を見て、こうなるのではないかと予想することが多くなった」等）をヒントに問題を作成した。

・これらの問題を継続して出題し、正答率及び解答内容等で、確かめたい力の高まり等の変化をとらえる。

・この実践例を参考に、学校の研究主題が目指す子どもの姿の実現状況を把握するための問題を作成し、例えば「〇〇小学校 △△状況調査」として、短い時間を設定するなどして問題を解かせてみることも考えられる。

【例4】学習シートを工夫して（子どもの到達度を文章表現で評価するもの）

(例) 〇〇科 学習シート

・どのような思考の流れで、最終的な考え（判断、結論、決定等）に至ったのかが見て分かるような学習シートを工夫する。

・事前に、目指す子どもの姿（どのようなことを根拠に、どのような考えを書くことができれば「おおむね満足」なのか）を複数設定しておき、判断の基準とする。

・年間を通して、継続的にこのような記入欄を学習シートに作成し、記入内容等の変容を確認しながら、考える力（表現する力）の実現状況を把握する。

・この実践例を参考に、学校の研究主題が目指す子どもの姿の実現状況を把握するための課題等を作成し、例えば夏季・冬季休業中の共通課題として、子どもたちに熟考させることも考えられる。

【例5】学級での活動を通して（子どもの到達度をパフォーマンスで評価するもの）

帰りの会の1分間スピーチ等で、くじを引いて引き当てた「題」について、時間いっぱい、自分の思っていること、考え等を発表する場面を設定する。

・事前に準備した判断の基準等に照らし合わせながら、年間を通して実施することで子どもの変容を把握する。

・スピーチが苦手な子どももいるので、学級の雰囲気づくり等、学級担任の細かな配慮が必要となる。

【例6】研究授業の参観を通して（教師の評価する目を育てるためのもの）

本時の授業で期待される子どもの姿（本時における目指す子どもの姿が実現した具体像）を設定し、参観者が評価者として授業における子どもの姿を観察する。

・事前に示された判断の基準を用いて参観する。具体的な子どもの姿を基にした参観者の評価のずれを協議することで、判断の基準の妥当性や信頼性を高め、子どもの変容を判断する際の共通理解が図られる。

・事前に抽出グループや抽出児を決めておき、皆で観察することで評価のずれを把握しやすくなる。

・教師の「評価する目」が育成されなければ、様々な指標等を設定しても判断の妥当性、信頼性は高まらない。

【その他】

パフォーマンステスト、ポートフォリオ評価、面接法（計画的に授業で面接する子どもを決め、活動中等に声をかけて状況を把握する）、ノート点検、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、観察法等

※実施上の留意点等

- ・複数の評価方法等を組み合わせて実施し、それぞれの結果を比較しながら妥当性、信頼性を高めていく。
- ・「思考力、判断力、表現力等」はそれらを単独では判断できない。基礎的・基本的な知識及び技能が身に付き、思考・判断したこと等が初めて表現できることに留意する。